

4.2 水域

4.2.1 低地の河川

(1) 狩野川

狩野川では、魚類 7 科 15 種、水生昆虫類 12 科 17 種が見つかったほか、水辺に生息する鳥類のカワウ、コガモ、バン、両生類のウシガエルなども確認されました。



御園(新城橋) 2002/7/15



御園(新城橋上流) 2002/8/14

魚類

狩野川新城橋付近では、魚類調査を行った 19 地点の中で最も多くの種が見られました。調査で確認された種の大部分は中流～下流域を主な生息域とする種で、特に多数見られた種はオイカワ、ギンブナ、ニゴイ、アユでした。河口から約 10km と近いいためか、ウナギ、マハゼ、ゴクラクハゼなど汽水域に多く見られる種も確認されました。また、他の地点では見られなかったギギ、ナマズ、グッピーなどの種も確認されています。

狩野川は鮎釣りの盛んな川で昔からアユの放流が行われていますが、アユに紛れて本来は狩野川に分布していなかった種が入り込むようになりました。調査で確認された種の内、オイカワ、カワムツ B 型、ニゴイ、ギギの 4 種は、アユの放流に伴い狩野川に分布するようになったと考えられている種です。

水生昆虫類

ヨシノマダラカゲロウ、チラカゲロウ、コカクツツトビケラ属の種などが確認されました。この中で多く確認されたのはウルマーシマトビケラでした。この調査地点は、すぐ近くに大場川が合流しているため、狩野川中流部に生息するクシゲマダラカゲロウやアカマダラカゲロウに加え、大場川下流部に多く生息するミズムシやシマイシビルも比較的多く確認されました。

水生生物を用いた水質判定は、「きたない水」となりました。

アユ



体長 30cm 程度になる狩野川を代表する魚です。秋に河川で産卵し、孵化した仔魚⁽⁴²⁾はすぐに降河し、春に遡上して河川で生活します。河床の石についた藻類を食べ、約 1m 四方のなわばりを持ちます。この習性を利用した“友釣り”は有名です。

【撮影：2002/7/15 狩野川(新城橋)】

ギギ(幼魚)



体長約 30cm になるナマズに似た魚です。胸鰭(むなびれ)のとげを使って「ギギ」と音を出すことからその名がつけられました。

静岡県内には天然分布しておらず、狩野川にはアユの放流などに紛れて入り込んだものと考えられています。

【撮影：2002/7/15 狩野川(新城橋)】

コカクツツビケラ属の種



大きさ 1.5cm 程のトビケラの仲間です。落ち葉が堆積している場所などに棲んでいます。水中の落ち葉を四角に切り、それを四角柱状につなぎ合わせた巣を作って、その中に入っています。

【撮影：2002/2/7 狩野川(新城橋上流)】

ミズムシ



大きさ 1cm 程の節足動物の仲間です。やや茶色がかった灰褐色です。多くの脚(あし)があり、陸にいるダンゴムシを扁平にした形をしています。石の隙間やゴミなどがたまった場所で見られます。

【撮影：2002/8/14 源兵衛川(芝橋)】

(2)大場川(中～下流域)

大場川中～下流域では、魚類3科6種、水生昆虫類7科12種が見つかったほか、水辺に生息する鳥類のマガモ、イソシギ、ハクセキレイ、は虫類のスッポンなども確認されました。

大場川中～下流域は市街地の中を流れており、両岸がコンクリートで護岸されていて、岸边にはあまり植物が見られません。また、河川改修の影響で河床が平らになっているため、河床には沈み石⁽⁴³⁾が多く、魚類や水生昆虫類の潜み場所となる浮き石⁽⁴⁴⁾はあまり見られませんでした。



中島(古川橋) 2002/7/15



文教町(鮎止め橋) 2002/2/8

魚類

調査で確認された種はコイ、アユ、ニゴイなどの遊泳魚⁽⁴⁵⁾が多く、底生魚⁽⁴⁶⁾はウナギ1種だけで、ハゼ科の種などは見られませんでした。底生魚が少なく遊泳魚が多数見られたのは、河川改修によって河床が平坦化し、底生魚が好んで生息する浮き石⁽⁴⁴⁾がほとんど見られない事によると思われます。また、河川が直線化されているため流速が速くなり、流れの緩い場所がほとんどないため、調査で見られた遊泳魚は成魚ばかりで、体長が小さく遊泳力の弱い幼魚は見られませんでした。

なお、調査で確認されたコイのほとんどが放流されたものと思われ、特に周辺が公園として整備されている鮎止め橋周辺では、錦鯉が多数確認されました。

水生昆虫類

多く採集された種は、昆虫類のコカゲロウ属の種、ウルマーシマトビケラ、コガタシマトビケラ属の種、昆虫類以外ではミズムシとシマイシビルで、その他の種はあまり採集されませんでした。調査は安久の大場川橋から徳倉の青木橋までの3ヶ所で行いました。いずれの調査地点でも多く採集された種は同じで、種類数は箱根西麓を流れる河川と比較すると少ない傾向にありました。

水生生物を用いた水質判定は、いずれの調査地点も「きたない水」と判定されました。

ウナギ



全長約 100cm まで成長します。海で産卵し、仔魚(42)は孵化後に河川を遡上して淡水域で過ごします。夜行性で、日中は礫下や泥の中に潜んでいます。水生昆虫やエビなどの小動物、魚類、カエル類などを餌としています。

【撮影：2002/7/15 狩野川(新城橋)】

ニゴイ



全長約 50cm まで成長するコイ科の魚です。外見がコイに似ていることからこの名前がつけました。雑食性で水生昆虫類や石についた藻類を食べます。河川的环境が悪化するとよく見られるようになります。

【撮影：2002/7/15 大場川(古川橋)】

ウルマーシマトビケラ



大きさ 1.5cm 程のトビケラの仲間です。体色はモスグリーン～焦げ茶色です。河川の中～下流では最もよく見られるトビケラで、石の間に網を張り、流れてきた水中の有機物等をとらえて食べています。

【撮影：2002/2/7 大場川(鮎止め橋)】

シマイシビル



大きさ 3cm 程になるヒルの仲間で、モスグリーンの背面に 2 本の薄い黒線があります。汚れた河でよく見られます。ヒルといっても人の血を吸うことはなく、ミミズの血を吸ったり、水中の有機物を食べています。

【撮影：2002/2/7 大場川(鮎止め橋)】

(3)源兵衛川

源兵衛川では、魚類 2 科 8 種、水生昆虫類 10 科 17 種が見つかったほか、水辺に生育・生息する植物のミシマバイカモ、オランダガラシ、エビモ、鳥類のコサギなども確認されました。なお、広瀬橋周辺や水の苑緑地周辺には、三島ホタルの会によってゲンジボタルの幼虫が放流されており、5 月頃には成虫の飛翔を見ることができます。

魚類調査を行った水の苑緑地では、公園整備に伴いコンクリートによる護岸工事をしなかったため、川岸にはオランダガラシなどの抽水植物⁽⁴⁷⁾が見られました。また、開けた水面には沈水植物⁽⁴⁸⁾のヤナギモやコカナダモが見られました。川底は芝橋と同様に小礫が多い状況でした。



泉町(芝橋) 2002/2/8



南本町水の苑緑地(川蝉橋) 2002/7/17

魚類

確認された 8 種のうち 6 種はオイカワ、アブラハヤ、カワムツ A 型などのコイ科の種でした。また、市街地に位置するためか放流されたと思われるキンギョも多数見られました。コイ科魚類以外に確認された 2 種は、ハゼ科のスミウキゴリとトウヨシノボリでした。今回の調査でトウヨシノボリは、源兵衛川の水域である水の苑緑地と中郷温水池の 2 地点のみで確認されました。過去の記録によると、水の苑緑地付近ではホトケドジョウの記録がありますが、河川改修後はほとんど見られなくなったようで、今回の調査では確認されませんでした。

水生昆虫類

調査は芝橋と川蝉橋(水の苑緑地内)で行い、ムナグロナガレトビケラ、コガタシマトビケラ属の種、アカマダラカゲロウなどが確認されました。同じ低地を流れる大場川と比較すると水生昆虫類はやや豊富でした。

生物を用いた水質判定では、いずれの調査地点も「きれいな水」と判定されました。ムナグロナガレトビケラなど「きれいな水」の指標となっている生物が生息している一方で、「少しきたない水」の指標生物であるコガタシマトビケラ属の種や「きたない水」の指標生物であるミズムシも多く生息し、いろいろな水質階級の生物が同じ程度生息していることが分かりました。一見ゴミが少なく澄んでいてきれいに見える源兵衛川ですが、棲んでいる生物から判断すると必ずしもきれいとは言えないようです。

カワムツA型



全長約 15cm のコイ科の魚です。静岡県内には天然分布していなかった種で、アユの放流に紛れ込んだものと考えられています。カワムツにはA型の他にB型がいて、両型共に三島市内に分布しています。胸鰭の色などが区別点です。

【撮影：2002/7/17 源兵衛川(水の苑緑地)】

スミウキゴリ



全長約 9cm のハゼ科の魚で、主に河川の汽水域から下流域に生息します。以前は、ウキゴリ汽水型とよばれていました。静岡県内には同属のウキゴリが分布していますが、こちらは河川の下流域から中流域に生息します。

【撮影：2002/7/17 源兵衛川(水の苑緑地)】

ムナグロナガレトビケラ



大きさ 1.5cm 程度のトビケラの仲間です。体の色がやや透き通った明るい緑色で、頭は黒褐色です。トビケラの仲間は巣を作る種が多いですが、ナガレトビケラの仲間は巣を作りません。他の水生昆虫類を餌としています。

【撮影：2002/7/15 源兵衛川(芝橋)】

コガタシマトビケラ属の一種



大きさ 1cm 程度のトビケラの仲間です。体の色は明るい緑色で、頭と脚の出ている胸部の背面は褐色をしています。石の表面のくぼみに多数着いていることがあります。

【撮影：2002/7/15 源兵衛川(芝橋)】